

121203 ツチハンミョウ

初冬の岩湧山頂付近、この日は無風で日が射していましたので暖かく感じたのですが、昼間でも気温は5 くらいまでしか上がりませんでした。

「ホオジロ」や「アオジ」などの野鳥の姿は見かけるのですが、虫たちはと言うと...
ところどころで「羽虫」が蚊柱を作っている程度で、それ以外はひっそりとした静けさが漂っていました。

“何もいないなあ～”とっていると...

木製ベンチの上をのんびりと歩いている、濃紺に輝く小さな虫を見つけました。【写真】
体長は8mmくらいでしょうか、極めてお腹が大きい様子から、産卵前の雌个体だと思えます。

春先に「ギンギシ」や「スイバ」の葉の上で多数の个体を見かける「コガタルリハムシ」にそっくりですが、季節はすでに初冬ですので、このような時期に産卵前の个体を見かけることはないでしょう。

図鑑で調べてみたところ、どうやら「ヨモギハムシ」の雌のようです。
お腹の大きなこの个体、歩きながら産卵場所を探していたのでしょうかね。

そして、そのすぐ近くにもっとすごい奴がいたのです！【写真 ~】

地面を“のっそり”という感じで大儀そうに歩いていた个体、体色は先の「ヨモギハムシ」と同様に、全身が光沢のある濃紺色をしており、体長は20mmはあろうかという“大物”なのです。

頭部と脚部は“巨大なアリ”という感じなのですが、腹部が極めて大きく、それとは不釣り合いな小さな翅(はね)が何とも風変わりな様相を呈しているように思います。

図鑑で調べてみたところ、「ヒメツチハンミョウ」の雌のようです。

翅が退化しているので飛ぶことができず、地上を歩き回るそうですが、以前に紹介したカラフルな「ハンミョウ」とは近縁ではなく、別の科に属する種です。

(<http://www.pref.osaka.jp/attach/15501/00099022/120920hanmyo.pdf>)

雌の大きなお腹の中には、何千個(4,000個との研究例もある)もの卵が入っており、越冬した雌は春先に土中に産卵します。

そして、孵化したばかりの体長1mmほどの幼虫は歩いて花の中に潜り込み、飛来したハナバチ類にしがみついてその巣に運ばれた个体のみが、ハナバチの卵や巣内の花粉等を食べて育つことができるのです。

それにしても、よほどの幸運が続かない限り、ハナバチの巣にたどり着くことはできないと思うのですが... それ故に、大量の卵を産むということなのでしょうね。

写真 : 地面を歩く「ヒメツチハンミョウ」の雌

写真 : 前記個体の頭部の拡大

写真 : 偽死(危険を察知するとすぐに死んだふり...)

写真 : 雌雄(右が雌、左が雄) 体液には有毒物質「カンタリジン」が含まれるので触らないように!

写真 : 「ヒメツチハンミョウ」の雄(触覚の途中が太くなっていますね)

写真 : 雌雄(左が雌、右が雄)













